Key word：特別支援教育　問題解決能力　指標　深い学び

≪　研究主題　≫

# 児童生徒が自ら進んで
# 『知る･選ぶ･生かす』姿を目指して　（３年次：最終年次）

## Ⅰ　研究の背景

### １　前研究主題における教育研究の成果と課題

本校では、平成３０年度から令和２年度までの３年間、研究主題を「今、そして社会へ。児童生徒一人一人の『生きて働く学び』を目指して」と設定し、授業づくりに関わる研究を行った。

- ○　各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせる手立て
- ○　単元や題材を通して児童生徒が「問い」を持ち一人一人が思考・判断できるような工夫
- ○　「習得・活用・探究」という学びのプロセスを意識した指導計画の構想
- ○　授業以外で学びを実践できる場の意図的な設定

以上の手立てによって、児童生徒が授業で学んだことを、他の授業や休み時間、学校外の様々な場面で生かす姿につなげることができた。

しかし、授業で学んだことと少しでも異なる場面や新しい課題に直面した時には、学んだことをどのように活用したら良いのかが分からなくなってしまい、学びを生かして新しい場面や課題に対処することが難しかった。児童生徒が、学んだことを日常生活や社会生活の様々な場面で発揮できるようになるには、自ら進んで物事を考え、問題に気付いて解決しようとしたり、学んだことを生かしたりする力を高めることが必要だと感じた。

### ２　研究主題設定の意図

学習指導要領では、「生きる力」を育むために各教科の目標や内容が「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの育てたい資質・能力で整理、具体化され、さらに教科等横断的な視点に立った資質・能力として「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」等が挙げられている。さらに、各教科の資質・能力の育成を目指すために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践が求められている。特に、「深い学び」を促す教育活動の一つとして挙げられるのが問題解決的な学習である。また、特別支援学校学習指導要領解説「総則編」（平成 30 年）では、教育的対応の基本として「自発的な活動を大切にし、主体的な活動を促すようにしながら、課題を解決しようとする思考力、判断力、表現力等を育むよう指導する」と記載され、知的障がいのある児童生徒においても問題解決的な学習を取り入れて指導することが重要であることが示されている。

本校においても、これまでの実践に加え、問題解決的な学習を取り入れることで、児童生徒の自ら進んで物事を考えたり、問題を解決しようとしたりする力を高めることができると考える。そして、その力により学校生活の場面に限らず様々な場面で児童生徒が自ら学びを生かすことが

でき、生活をより充実させることができるようになるのではないかと考え、研究主題を「児童生徒が自ら進んで『知る・選ぶ・生かす』姿を目指して」とし、令和３年度から３年次計画で設定した。

## ３　研究を通して育てたい児童生徒の力「問題解決していくために必要な力」

問題解決していく力について、学習指導要領では「問題発見・解決能力」として「物事の中から問題を見いだし、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行し、振り返って次の問題発見・解決につなげていく過程」と示されている。「深い学び」の視点からは、各教科等の見方・考え方を働かせながら、学んだ知識を関連付けてより深く理解したり、問題を見いだして解決策を考えたりする学びの過程を大切にした学習展開が求められている。知的障がいのある児童生徒にとって、自ら問題を問題として意識化することは難しい（田口, 2019）ため、本校では、問題解決の過程の中でも、児童が問題を捉えた後の「解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行」する部分に焦点を当てる（図１）。

図１　本研究で焦点を当てる問題解決の過程

問題解決の過程を遂行する力を本校では、「問題解決していくために必要な力」とし、「知る」、「選ぶ」、「生かす」という三つの力に整理して考え、この三つの力を働かせて問題を解決し目標を達成する学習過程を『「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクル』として設定した（図２）。この「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルを取り入れた授業実践を行うことで、「問題解決していくために必要な力」を高めていくことができると考え、児童生徒の「知る」「選ぶ」「生かす」姿を見取り、適切に評価することによって、「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルを取り入れた授業の在り方や教師の指導の有効性を探っていく。さらには、児童生徒の「問題解決していくために必要な力」を育み、自ら問題を解決しようとする姿の具現化につなげていきたい。

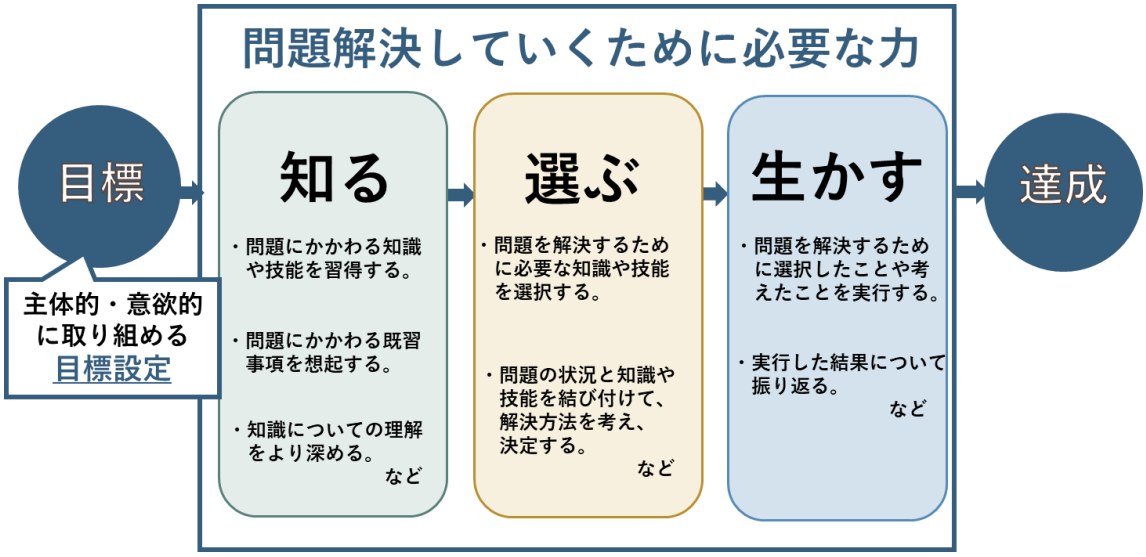



図２　「問題解決していくために必要な力」と「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクル

# Ⅱ　研究の概要

## １　研究の目的

児童生徒一人一人が「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルを通して、問題解決の見通しを持ち、目標に自ら進んで向かうことができる姿の実現を目指す。

## ２　研究の内容

（１）「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルを取り入れた授業を実践し、教師の指導の在り方等の有効性を検証する。

（２）児童生徒の行動から「知る」「選ぶ」「生かす」姿を的確に捉え、適切に評価する。

（３）「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルにおける、児童生徒に必要な力や効果的な指導等について整理し、指導・支援の充実を目指す指標を作成する。

## ３　研究の方法

（１）学部ごとに研究授業を行い、「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルを取り入れた授業実践について考察する。

（２）授業や日常生活での児童生徒の行動の様子から「知る」「選ぶ」「生かす」姿を捉えて評価し、その変容や成長の要因を考察する。

（３）授業実践をもとに、「問題解決していくために必要な力」を洗い出すとともに、その力を高めていく効果的な指導について整理する。

## ４　研究の計画（３年計画）

| | |
|---|---|
| １年次 | ・　「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルを取り入れた授業づくりを実践する。<br>・　児童生徒の「知る」「選ぶ」「生かす」姿を捉える。 |
| ２年次 | ・　授業実践をもとに、「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルにおいて、児童生徒の「問題解決していくために必要な力」を洗い出す。<br>・　児童生徒の「知る」「選ぶ」「生かす」姿の変容から、「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルを取り入れた授業の在り方や効果的な教師の指導・支援を探る。 |
| ３年次 | ・　「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルにおいて、児童生徒の「問題解決していくために必要な力」を整理し、指導・支援の充実を目指す指標としてまとめる。<br>・　これまでの研究の成果と課題を明らかにし、次期主題研究につなげる。 |

# Ⅲ　研究の経過

## １　１年次研究の概要　　（詳細については研究紀要第４４号をご覧ください。）

### （１）　研究の内容及び方法

①　「知る･選ぶ･生かす」の学習サイクルを取り入れた授業づくりを行い、事後研究会での協議を通して、授業の組み立てや教師の手立ての妥当性や有効性について検討する。

②　目指す児童生徒の姿を明確にして、授業実践を行い、児童生徒の「知る」「選ぶ」「生かす」姿を的確に捉えて評価する。

### （２）　授業実践の様子

**小学部　　算数科　「みずはかせになろう」**

【目指す児童の姿】
　学習したことを想起したり、友達の活動の様子を見たりすることで、水のかさの比べ方に気付き、考えながら学習に取り組む姿

知る

水のかさの比べ方やポイントを習得

選ぶ　生かす

同じ水のかさを探す活動

同じ水のかさを作る活動

**中学部　　生活単元学習　「帆掛け車で競い合おう」**

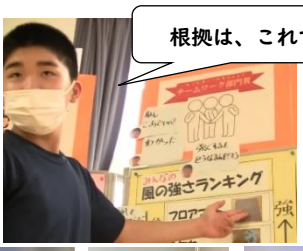
【目指す児童の姿】
　帆掛け車を作る活動を通して、風の力と車の動きの関係性について気付き、自分の意見を整理して伝える姿

知る

風の強さ、帆の大きさや形と車の動きの関係に気付く

選ぶ　生かす

コンテストに使用する帆掛け車を友達と相談しながら制作



帆掛け車の紹介とコンテスト

**高等部　　作業学習　「カフェを成功させよう」　～気遣いのある接客を目指して～**

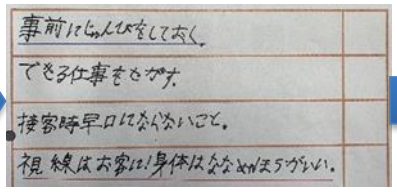
【目指す児童の姿】

　気遣いチェックリストを活用し、お客様や仲間を気遣いながら状況を判断して、自ら行動することができる姿

**知る**

自分たちの課題を把握
地域のカフェから良い接客について学ぶ

**選ぶ**



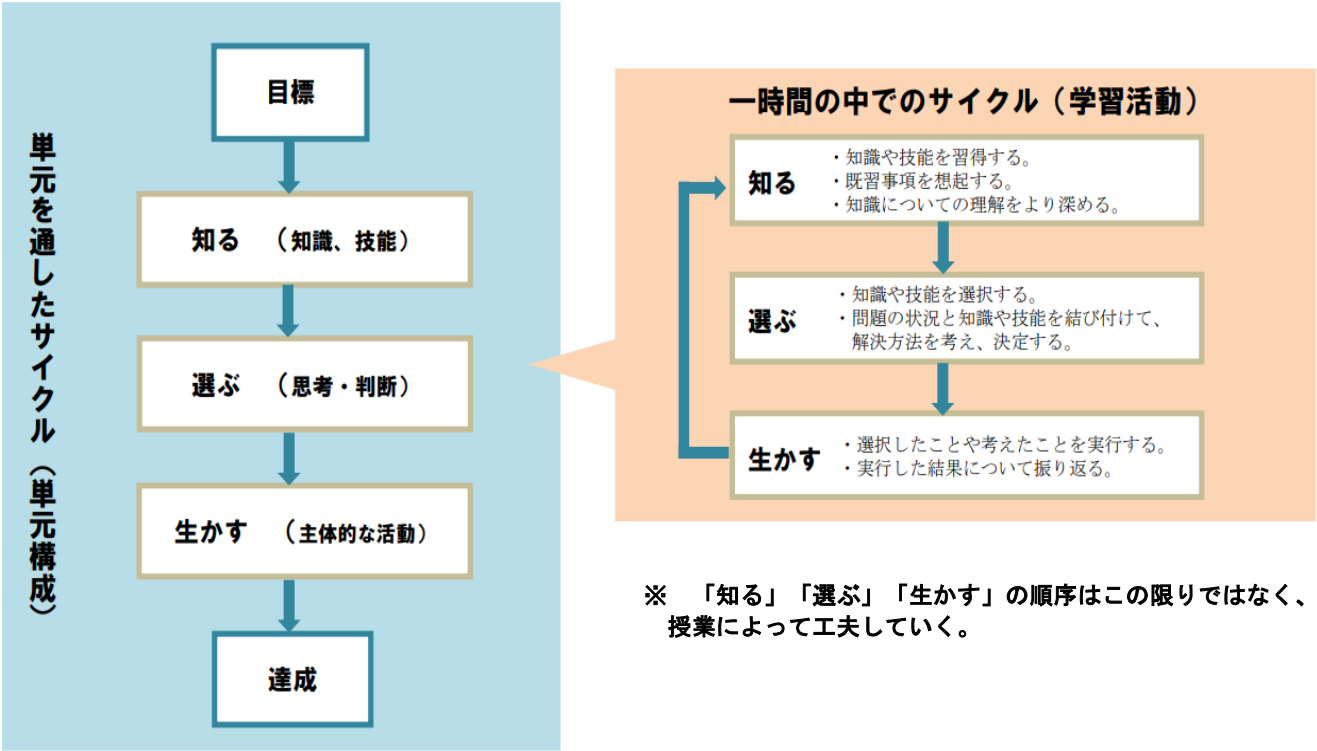

「気遣いチェックリスト」の作成

**生かす**

気遣いのある接客を実践

## （３） 研究の成果と課題　　（成果：○、課題：●）

○　「知る」「選ぶ」「生かす」の視点で単元や授業を構築する中で、「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルを、単元全体と一単位時間あたりの授業に取り入れることが有効であることがわかった（図３）。




※　「知る」「選ぶ」「生かす」の順序はこの限りではなく、授業によって工夫していく。

図３　単元全体と一時間における「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルの関連図

○　ワークシートやカード、チェックリストなどを用いて、児童生徒が既知の知識・技能や授業内でそれまでに得た学びを想起する手立てを講じることで、「選ぶ」「生かす」につなげることができた（図４）。また、「生かす」における学習の振り返りを通して、児童生徒は学習内容の理解を深めたり、新たな気付きを得たりなど、学びを深めていく姿が見られた。

図4　各授業実践で用いられたワークシート等の例

○　目指す児童生徒の姿を設定することにより、単元や授業のねらいの達成に向けた児童生徒の姿が具体化され、教師が児童生徒の行動の意味を推測し、「知る」「選ぶ」「生かす」の視点から観察できるようになってきた。

●　児童生徒の「知る」「選ぶ」「生かす」姿の実態把握が不十分なために、児童生徒が問題を解決する姿を引き出すために必要な手立てや活動内容に課題が残る部分があった。

## ２　２年次研究の概要　　（詳細については研究紀要第４５号をご覧ください。）

### （１）　研究の内容及び方法

① 児童生徒の「問題解決していくために必要な力」の実態把握をし、目指す児童生徒の姿を具体的に設定して、「知る」「選ぶ」「生かす」の視点を取り入れた授業づくりを行う。

② 「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルを取り入れた授業実践をする中で、児童生徒の「問題解決していくために必要な力」を洗い出す。

③ 児童生徒の「問題解決していくために必要な力」が、単元の始めと終わりでどのように変容したかを見取り、評価する。

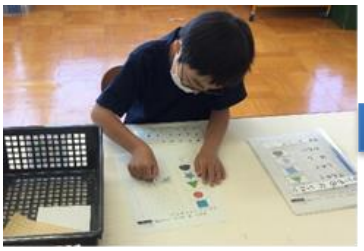
### （２）　授業実践の様子

**小学部　　国語科　「相手に分かるように伝えよう」**

【目指す児童の姿】

食べ物の名前や物の様子を表す言葉を知り、表現の仕方を考え、学習した言葉を使って相手に分かるように伝える姿

知る



形と形を表す言葉のマッチングで言葉を習得

選ぶ

ほしいものの色や形を選択

生かす

自分のほしいものを店員役の教師に伝える

**中学部　　理科　「物の重さを比べよう」**

【目指す児童の姿】

実験の結果を基に差異点や共通点に気付き、根拠となる数値を比較しながら理科の見方・考え方を働かせて考える姿

知る

体重計を使った実験

ブロックを使った実験

選ぶ　生かす

今まで学習した形の変化の条件を組み合わせても、重さは変わらないことを発見

**高等部　　音楽科　「箏の響きを味わおう」～友達と美しい音色を奏でよう～**

【目指す児童の姿】

自分たちのイメージや思いを持ち、音楽を形づくっている要素と結び付けながら表現を追求する姿

知る

基本奏法を習得

選ぶ

音や音楽からの気付きやイメージの記入

生かす

イメージや思いを演奏で表現

## （３） 研究の成果と課題　　（成果：○、課題：●）

○　「問題解決していくために必要な力」を「知る」「選ぶ」「生かす」「全体にかかわる力」に整理した（図５）。整理した項目を基に「授業づくりサポートシート」を用いて、児童生徒の「問題解決していくために必要な力」の実態把握を行い、授業づくりにおいて、単元(題材)を通して目指す児童生徒の姿の設定や手立ての検討などに活用することができた（図６）。

**知る**
- 課題を捉える力
- 既習事項を想起する力
- 既習事項と新たな知識を結び付ける力　等

**選ぶ**
- 比較する力
- 考えを切り替える力
- 結果を予測する力　等

**生かす**
- 考えを行動に移す力
- 出来事を思い起こす力
- 結果を捉え、評価する力
- さらに工夫して取り組もうとする力　等

**全体**
- 集中して課題に向かう力
- 学びを記憶しておく力
- 主体的に課題に向かう力
- 感情をコントロールする力　等

図5　「問題解決していくために必要な力」

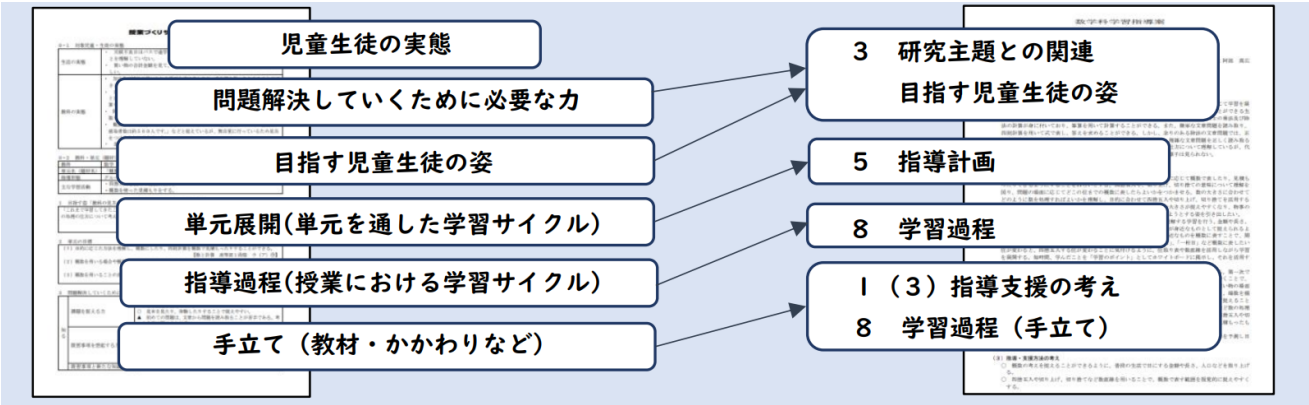



図6　授業づくりサポートシートの内容と学習指導案の関連

○　「目指す児童生徒の姿」を具体化し、特に高めたい力と育てたい力を設定することで、児童生徒の「問題解決していくために必要な力」を育む授業づくりを行うことができた。また、特に高めたい力と育てたい力に焦点を当て、単元(題材)の始めから終わりまでの児童生徒の姿の変容を捉えることで、「問題解決していくために必要な力」が相互に関連しながら高まっていくことが明らかになった。

○　「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルを取り入れた単元（題材）を構成する中で、『「知る・選ぶ・生かす」を積み上げていくような学習サイクル』と『「知る・選ぶ・生かす」を広げていくような学習サイクル』の二種類の学習サイクルのタイプが見えてきた（図７）。

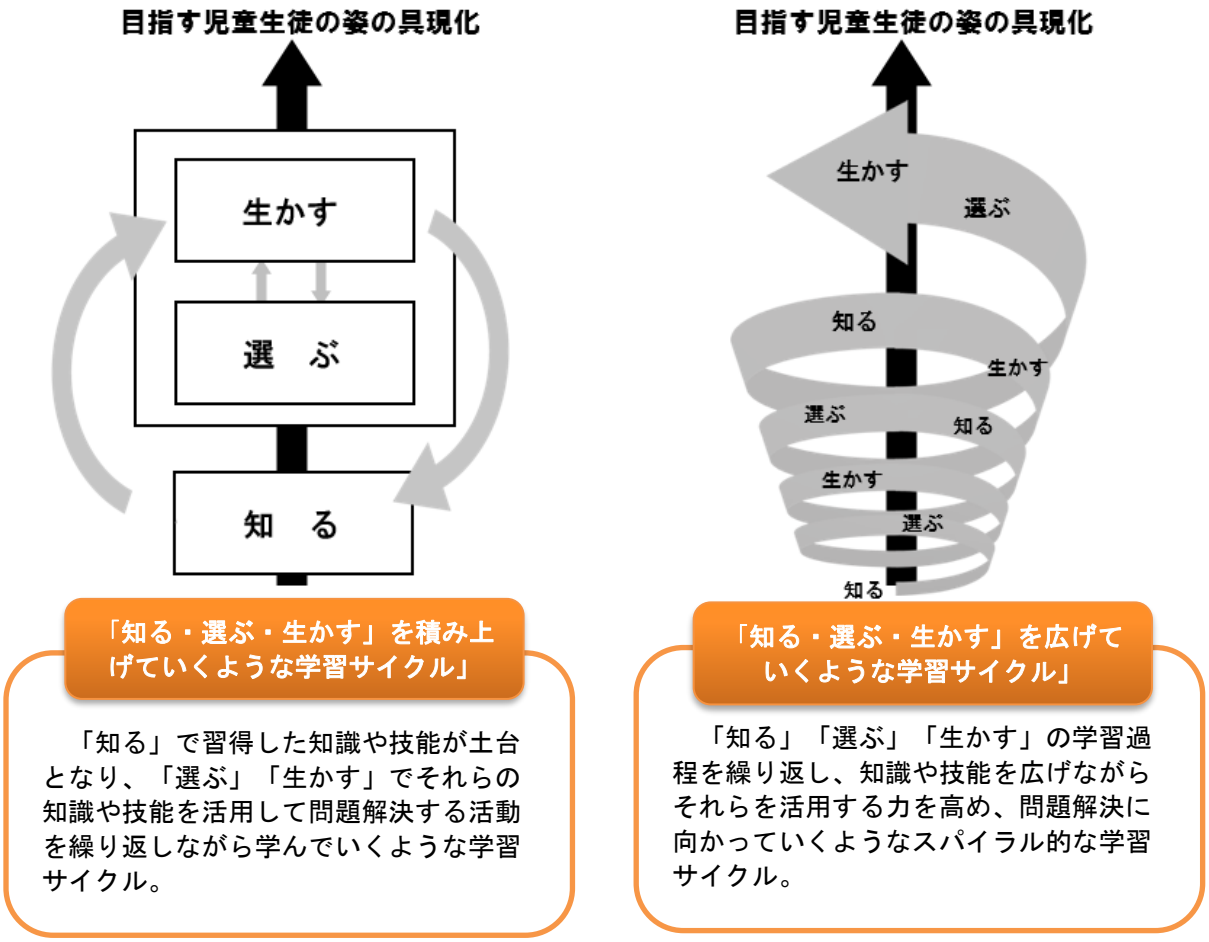



図７　二種類の学習サイクル

●　「問題解決していくために必要な力」を洗い出した後の検討が不十分だったために、問題解決していくために必要な力」の定義に不明確な部分があり、教師によって捉え方の個人差が生じ、統一されない部分があった。

●　特に高めたい力と育てたい力に重きを置くことで、「問題解決していくために必要な力」を高めることができたが、「問題解決していくために必要な力」を高めること自体が目的となり、単元（題材）や本時の目標と並列で捉えてしまうことがあった。「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルは、単元（題材）や本時の目標を達成するための手段であることを認識して授業づくりを行うべきである。

## ３　３年次研究の計画

### （１）　研究の内容及び方法

**研究内容Ⅰ**

**「問題解決していくために必要な力」の指標の作成**

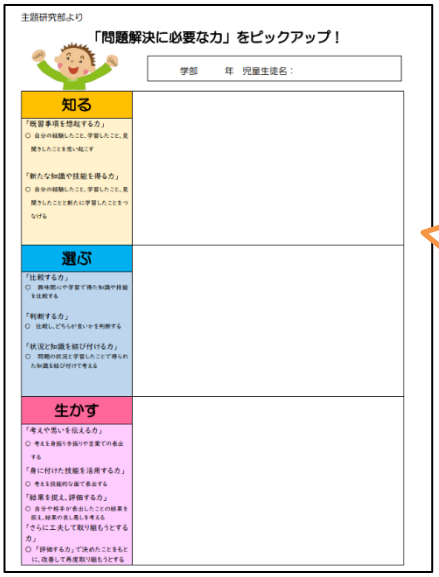
この指標は、「問題解決していくために必要な力」を発揮している姿を、児童生徒の発達の段階を踏まえて系統的に分類したものとなる。

**【指標作成の目的】**

① 児童生徒の「問題解決していくために必要な力」の実態を捉えるためのものとして活用する。
② 「知る」「選ぶ」「生かす」の視点で授業を構想する際の支援ツールとして活用する。
③ 児童生徒の「知る」「選ぶ」「生かす」姿を見取る際に活用する。

**【指標の作成計画】**

① ２年次までの授業実践で洗い出した「問題解決していくために必要な力」について「知る」「選ぶ」「生かす」の視点で整理する。
② 整理した「問題解決していくために必要な力」について、全校児童生徒の実態を付箋紙に記入する（図８）。
③ 「問題解決していくために必要な力」の実態が記入された付箋紙を「知る」「選ぶ」「生かす」に分類する。さらに、その中で似た内容が書かれたものをグルーピングし、発達の段階に並び替えて、指標にまとめる。
④ 完成後は、児童生徒の実態把握、授業の構想、児童生徒の見取りなどの場面で活用する中で、様々な授業や実態の異なる多くの児童生徒に対応できるように、指標の項目を見直し、追加するなどして改善していく。




○児童生徒１名につき１枚作成する。
○「知る」「選ぶ」「生かす」の実態を付箋紙に記入して貼る。
○できるだけ短い言葉で児童生徒の実態を記入する。

図８　全校児童生徒の実態把握に用いるアセスメント用紙

## 研究内容Ⅱ

**「問題解決していくために必要な力」を明確にしてその力を伸ばす授業づくり**

### ① 授業づくりサポートシートや「問題解決していくために必要な力」の指標を活用した授業づくり

授業づくりサポートシートや「問題解決していくために必要な力」の指標を基に、児童生徒の「問題解決していくために必要な力」の実態把握を行い（図９）、単元（題材）の目標と照らし合わせて「目指す児童生徒の姿」を設定する。児童生徒の実態や授業のねらいを踏まえて、「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルを検討し、意図的に単元計画を設定する。

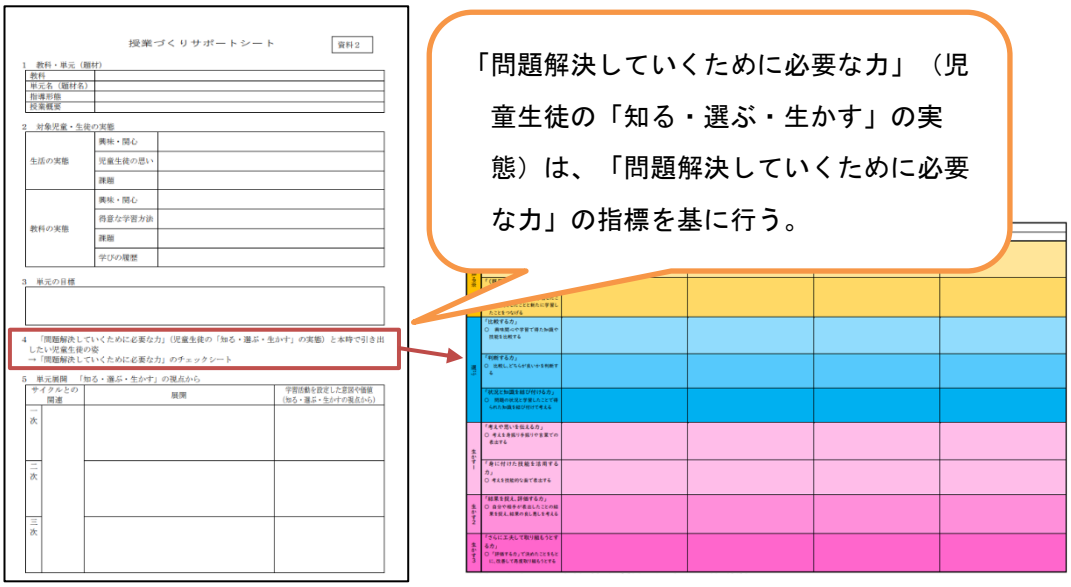



図９　授業づくりサポートシートと「問題解決していくために必要な力」の指標の案

### ② 授業評価ワークシートを活用した授業評価

教育研究学校公開及び教育実践研修会では、研究協議で授業評価ワークシートを基に、本時の目標や効果的な指導・支援について児童生徒の姿から評価していく。

## （２）年間の研究活動スケジュール

# ＜引　用　・　参　考　文　献＞


**引用文献**

１）文部科学省（2018）：特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部）

２）田口則良（2019）：「生きる力を育てる学習支援　知的障害児のために」　星雲社

**参考文献**

１）福島大学附属特別支援学校（2019）：今、そして社会へ。児童生徒一人一人の「生きて働く学び」を目指してー研究紀要第４１号ー

２）福島大学附属特別支援学校（2020）：今、そして社会へ。児童生徒一人一人の「生きて働く学び」を目指して　研究紀要第４２号

３）福島大学附属特別支援学校（2021）：今、そして社会へ。児童生徒一人一人の「生きて働く学び」を目指して　研究紀要第４３号

４）福島大学附属特別支援学校（2022）：児童生徒が自ら進んで『知る・選ぶ・生かす』を目指して　研究紀要第４４号

５）福島大学附属特別支援学校（2023）：児童生徒が自ら進んで『知る・選ぶ・生かす』を目指して　研究紀要第４５号